

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		多機能型児童発達支援事業所 森の子		公表日		令和8年3月31日	
環境・体制整備	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	3	・部屋数が限られている為、サークル等を利用して医ケア児・未就学児・放デイ児・個別支援児を年齢や特性に応じて部屋を分け、子ども達が安心して過ごせるよう工夫して支援している。	・児童の年齢や特性に応じて必要な環境を考え、部屋の使い方の工夫や見直しをしていく必要がある。	
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	2	・保育士、看護師、理学療法士(PT)、児童指導員、児童発達支援管理責任者と様々な専門職員が連携し、日々の活動や支援を工夫して支援している。	・育児休暇や休職者の影響で、日によって職員が少ない時間帯がある。待機職員が確保しにくい場面もあるため、勤務体制や役割分担の見直しを進め、安定した支援体制を維持できるよう改善していく必要がある。		
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	3	・活動室・静かなスペース・食事スペースなど、目的ごとにエリアを明確に区分し、子どもが見通しを持って行動できるようにしている。	・子ども達の年齢や特性に合わせたトイレ環境の改善が必要であり、安心して利用できるよう今後の見直しを進めていく。		
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9	1	・毎朝、子ども達が通所される前に清掃を行い、清潔で安心して過ごせる環境を整えている。	・感覚過敏や個別の特性に合わせた環境調整を行っているが、照明・音環境などの細かな調整方法を職員全体で共有する仕組みが今後の改善点である。		
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	1	・活動や必要に応じてマットを床に敷き簡易的な個別空間(パーソナルスペース)を作り、子ども達が安全に楽しく過ごせるよう工夫して支援している。	・個別スペースの数や広さに限りがあるため、活動内容や人数に応じた柔軟なレイアウト変更の仕組みを強化していく必要がある。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8	2	・毎月、職員会議を開催し、子どもの支援状況の共有、課題の整理、業務フローの見直しなどを行っている。定期的な会議により、職員間の認識統一と支援の質の向上につなげている。	・子ども達がいる時間帯は全職員の参画が難しいため、今後はより確実に参加できる体制づくりを進めていく必要がある。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	0	・保護者の声を大切にし、小さな意見も改善につなげる姿勢を職員全体で共有している。	・職員間での共有は行っているが、改善策の実施状況を定期的に振り返る仕組みを強化する必要がある。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	1	・毎月職員会議を実施し、職員からの意見を共有している。その内容をもとに業務改善へつなげている。	・今後は話し合いの機会を増やし、ていく必要がある。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8	2	・日々の支援記録や事故防止の取り組みなど、評価に耐えうる運営体制の整備を継続して行っている。	・外部の視点を取り入れる機会が限られているため、保護者意見や他機関との情報交換をより積極的に活用する必要がある。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	9	1	・毎月、法人内研修を実施し、虐待防止・安全管理・障害特性の理解など、支援に必要な知識を継続的に学んでいる。また、外部研修にも参加し、最新の知見や施設の取り組みを取り入れることで、支援の質の向上や業務改善につなげている。	・毎月全員参加が望ましいが難しい為、全職員へ共有する仕組みづくりを行っていく必要がある。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9	1	・事業所の取り組みや情報をHPにて公表し、透明性の確保に努めている。	・保護者がアクセスしやすい案内方法を改善していく必要がある。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9	1	・アセスメント結果は職員間で共有し、客観的な視点でニーズや課題を分析したうえで支援計画を作成している。	・アセスメントの視点は共有しているが、職員間での評価基準のさらなる統一が今後の課題である。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9	1	・児発管だけでなく、日々の支援に関わる職員がアセスメント内容や子どもの変化を共有し、共通理解のもとで計画を検討している。	・職員間での情報共有は行っているが、アセスメントの視点や評価基準のさらなる統一が今後の課題である。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9	1	・児童数が多く全員の児童の支援が職員間に共有されていない点もある為、もっとすり合わせをし全職員が徹底して一人ひとりの児童の支援ができるように取り組んでいく。	・児童ごとの「支援ポイント」を簡潔にまとめたシートを作成し共有フォルダーの活用や誰でもすぐ確認できる工夫が必要である。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	1	・保護者からの聞き取りや家庭での様子をアセスメント情報として活用し、施設と家庭の両面から子どもの適応行動を把握している。	・アセスメント結果を保護者にわかりやすく伝えるための説明資料やフィードバックシートを整備することで、家庭との連携がさらに強化される。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9	1	・支援者が誰でも同じ支援ができるよう、環境調整・声かけ方法・活動の工夫などが明確に示されている。	・「どのように達成度を確認するか」の基準を明確にすることで、計画の振り返りがより客観的になる。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9	1	・固定の職員(保育士)が活動プログラムを考案してみんなで実施している為、チームで話す場を設けていく。	・複数の職員で話し合い考案していくことで、児童一人ひとりに合った活動を作りやすくしていく。話し合いが実際の支援に反映される仕組み作りが必要である。	

支援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	2	・毎月の活動内容を計画的に設定し、毎日同じ活動にならないよう工夫している。また、行事に合わせて外出の機会も設け、子ども達の経験の幅を広げている。	・チームで話し合い活動プログラムが固定化しないよう工夫していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9	1	・巧緻訓練（指先の操作・手先の動きの強化など）を取り入れた活動を行い、子どもの発達段階に応じた支援を実施している。日常生活動作の向上や集中力の育成につながるよう、個々の状態に合わせて取り組みを進めている。	・個々の成果を振り返る仕組みの強化と保護者への活動内容の共有方法の工夫。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	1	・slackを職員間の情報共有のツールとして活用し、送迎と職員配置の分担表、児童の申し送りをその都度共有している。毎日ミーティングを行いそれぞれの役割分担を確認して子ども達の支援を行っている。	・MTG内容の記録方法や振り返りの強化と職員全員が参画しやすいMTG運営の工夫。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	3	・送迎から戻る時間と退勤時間が重なる為、サービス提供後に打ち合わせ等はできていない。必要に応じてslackにて情報共有は行っている。	・翌日のミーティング時に前日の振り返りも行っている時間が足りない時がある為、今後はミーティングで扱う内容を絞る等の改善を行っていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9	1	・支援後に支援経過記録を作成し、必要に応じて職員間で共有している。	・記録を活かした振り返りの仕組み強化。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9	1	・日々の支援記録や行動観察をもとに、定期的にモニタリングを実施し、子どもの変化を把握している。	・モニタリング結果を次の支援に反映する際、改善内容の振り返りサイクルの強化が求められる。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	9	1	・子どもの興味・得意・苦手に応じて活動内容を調整し、無理なく参加できるように配慮している。	・特定の活動に偏らないよう、創作・運動・社会参加などのバリエーションをさらに増やすことで、子どもの選択肢が広がる。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8	2	・毎回ではないが、活動の中で子ども達に選択してもらった場面は設けるよう支援している。	・今後も自己決定支援に向けた視覚的支援や声掛けを心掛け職員の質の向上に努めていく。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	2	・毎回ではないが、児発管と一緒に現場職員(児童指導員、保育士、看護師)が参画できる時は参画するようにしている。	・継続して行っていく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	1	・サービス担当者会議や個別支援会議に参加し、子どもの状況や支援方針を多職種で共有している。	・医療・保育・教育機関との連携はあるが、地域資源の活用や連携の幅をさらに広げる余地がある。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	10	0	・災害時の学校休校の連絡は学校からメールでお知らせが来るようになっている。学校によっては保護者との連絡のみのところもある為、その際は保護者から連絡をもらうようにしている。日々の児童の情報共有に関しては、下校時間のお迎え時に行っている。	・継続して行っていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	9	1	・家庭での様子や就学前施設での支援内容を保護者から丁寧に聞き取り、情報の抜け漏れがないようにしている。	・情報共有の方法と記録形式を統一する必要がある。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	10	0	・これまでの支援内容・成功体験・配慮事項などを整理し、移行先の事業所へ必要な情報を提供できるよう準備を進めている。	・卒業後のフォローアップ体制が未確立のため、移行後の状況を確認し、次年度以降の改善に活かす仕組みづくりが必要。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	5	・法人内に児童発達支援センターがあるため、必要に応じて迅速にスーパーバイズや助言を受けられる体制が整っている。	・現状では他事業所と関わる機会が少なく、今後は連携の機会を広げていくことが課題である。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	9	・児童館との直接的な交流は行えていないが、公共の公園や外出支援の場面で地域の子ども達と同じ空間で過ごす機会は作るように支援している。	・地域の行事や公共施設の情報収集を行い、他のこどもとの自然な関わりが生まれる場を計画的に取り入れていくことが課題である。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	5	5	・管理者が自立支援協議会に参画し、地域の関係機関との情報共有や課題把握に努めている。	・管理者以外の職員も参加できる機会を検討し、情報共有体制を強化する必要がある。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10	0	・連絡ノートや送迎時のコミュニケーションを通して、子どもの体調・家庭での様子・支援に必要な事項を確認している。日々のやり取りが継続的に行われており、支援内容の調整や安全確保に役立っている。	・送迎時の短時間でのやり取りが中心となるため、落ち着いた話せる機会（面談・電話・オンライン等）の確保が今後の課題である。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	6	・保護者が安心して相談できるよう、日常的なコミュニケーションを大切にし、信頼関係を構築している。	・保護者同士の交流や学び合いの機会は限定的であり、保護者会や座談会などの機会創出が今後の課題である。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9	1	・利用開始時に、運営規程・支援プログラム・利用者負担について、書面と口頭の両方で丁寧に説明している。	・説明は行っているものの、説明内容の記録方法や説明手順の標準化が今後の課題である。	
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10	0	・面談・連絡帳・送迎時の対話など複数の方法で意向を確認し、計画が一方的にならないよう配慮している。	・保護者の意向確認の手順や記録方法を統一し、計画作成との紐づけを明確にすることが課題である。	

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	10	0	・計画作成時に保護者へ書面を提示し、支援内容・目標・配慮事項を丁寧に説明している。	・説明方法や記録の手順が職員間で統一されていないため、説明内容の標準化が必要である。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10	0	・定期的ではないが、相談を受けた際には適切に対応しており、コドモン・共通ノート・面談などを通して必要な助言や支援を行っている。	・コドモンや共通ノートでのやり取りは行われているが、助言内容の記録方法にばらつきがあり、統一した記録・共有体制の整備が必要である。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	9	・運動会などの行事を開催し、子ども同士の関わりや保護者との交流の機会を設けている。行事を通して、子どもの社会性の育ちや家庭との連携強化につながる取り組みを行っている。	・コロナ以降、保護者交流の機会が運動会のみになっており、今後は交流の機会を増やすことが課題である。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10	0	・苦情対応の担当者や手順を明確にし、管理者を中心に迅速に対応できる体制を整えている。	・保護者が気軽に意見を伝えられる仕組み（意見箱・定期アンケート等）が十分でなく、今後の導入が課題である。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	10	0	・インスタを通して、日々の活動や行事の様子を写真や動画で発信している。保護者が子どもの様子を把握しやすくなるだけでなく、事業所の取り組みを広く共有することで、安心感や信頼性の向上につながっている。	・継続して行っていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10	0	・個人情報には鍵付き書庫で適切に保管し、SNS発信時には事前確認や同意書を取得している。	・SNS発信内容のチェック体制の強化と職員全体への個人情報保護研修の継続。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10	0	・コドモン・連絡ノート・送迎時の対話など複数の手段を活用し、情報が確実に伝わるよう工夫している。	・職員間での共有は行われているが、伝え方の統一や支援方法の共有を定期的に見直す仕組みが課題である。
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	8	・地域住民との交流が子どもたちの社会性の育ちにつながることを踏まえ、無理のない形での交流機会の創出を目指す姿勢を持っている。	・コロナ以降、地域住民との交流行事は実施できていないが、今後は再開に向けて検討している。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	3	・事故防止・緊急時対応・防犯・感染症対応など、必要なマニュアルを整備し、職員が確認できる環境を整えている。	・防犯訓練・緊急時対応訓練は簡易的な内容にとどまっているが、今後はこれらを基盤として実践的な訓練へと発展させ、安全管理体制の強化を図っていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	3	・マニュアルを整備し、職員がいつでも確認できる環境を整えているため、緊急時の対応方針が明確になっている。	・防犯・緊急時対応などの訓練を定期的実施する必要があり、活動内容の中に各種訓練を取り入れていくことが今後の課題である。今後は、日常の活動に無理なく組み込める形で訓練の充実を図っていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9	1	・服薬やてんかん発作、子どもの状況については必ず保護者と連携し、看護師を中心に職員全員で確認を行っている。	・今後も継続して、誤投薬の防止や状況に応じた適切な対応を行い安全管理に努めていく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10	0	・アレルギー対応として、食事場所の分離や食器の専用化・消毒といった基本的な安全対策は行っていたが、厨房と職員の視覚的確認の不十分さが見につき、そこを補う為書面での確認を追加し事故防止に向けて運用を強化した。	・毎月給食委員会の会議を実施している。（栄養士、厨房職員、児童3事業所の各責任者）毎月の課題や児童の嗜好やメニューの内容、災害時の備蓄品について等の内容を話し合っている。今後も継続して食の安全と質の向上に努めていく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	2	・防犯・緊急時対応に関する研修を継続して実施し、職員全体で安全確保の重要性を共有している。	・短時間の簡易訓練（避難方向の確認・初期対応の声かけ等）は取り入れているが、実際の場面を想定した実践的な訓練には至っていない。今後は安全計画に沿って、定期的な実践訓練の実施方法を検討し、体制整備を進める。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9	1	・感染症対応や緊急時対応など、季節や状況に応じて保護者へ注意喚起や情報提供を行っている。	・安全計画の内容は必要に応じて伝えているが、計画全体を体系的に保護者へ周知する仕組み（資料・説明機会）の整備が今後の課題である。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	1	・ヒヤリハットが発生した際、書類作成と情報共有を徹底し、再発防止に向けて取り組んでいる。	・今後も継続して行っていく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10	0	・毎年法人内研修と外部研修を実施し、虐待防止に繋げている。	・職員の気になる声掛け等あった際は職員間で話し合いを行い、正しい支援方法を統一し、虐待防止・不適切支援の予防に繋げている。今後も継続して行っていく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	10	0	・やむを得ず身体拘束が必要となる場面について、こどもや保護者に事前に丁寧な説明を行い、理解と同意を得る姿勢を大切にしている。	・実際の場面を想定した対応訓練やケース検討が少なく、職員全体の判断力・対応力を高める機会の確保が求められる。